

## 目標（5）

# 地域ぐるみで 子育て・子育てを支えます



▲園児による野菜の収穫

### I. 目指す姿【PLAN】

目標達成に向けての考え方	地域社会を構成する地域・事業者・関係機関と連携し、子育て・子育てを総合的に支援することにより、「社会の宝」である子どもが健やかに成長でき、安心して子どもを産み育てることができる環境を整えていきます。
目標が達成された姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 子育てと仕事の両立など、安心して子どもを産み、育てられる環境が整っています。</li> <li>◇ 子育てを楽しむ親や地域の大人が増え、親子の対話や世代間交流が活発に行われ、子どもとともに成長しています。</li> <li>◇ 子どもの視点に立った成長支援が地域ぐるみで行われ、子どもがのびのびと活動し、家庭やまちに笑顔があふれています。</li> </ul>

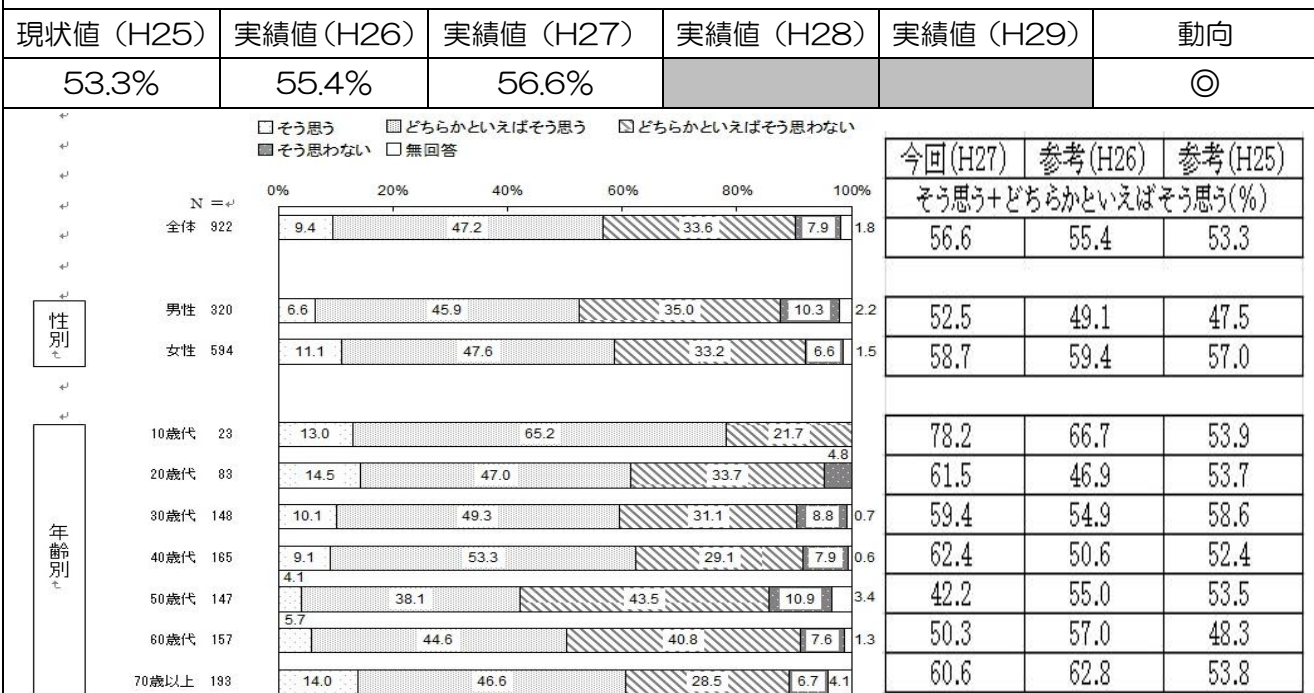
### II. 目標達成のための主な取組み【DO】

こんなことに取り組みます！	何を・どのように・どうした	いつ
(1) 「高浜市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、多様で柔軟な保育サービスの提供など、子育てニーズを適切なサービスに結びつける取組みを進めます。	①吉浜さんさん保育園の3歳児定員を追加した。	H27.4～
	②保育園の定員の弾力運用により、受入れ児童数増の対応を行った。	H27.4～
	③家庭的保育施設で子ども・子育て支援新制度に対応できるよう、給食提供を開始した。	H27.4～
(2) 子どもの想いを理解し、子どもの視点に立って、成長を支援できる大人を増やす取組みを行い、「地域の子育て力」を高めます。	①アンケート結果等を活かし、子育て支援ネットワークのポータルサイトの情報更新を随時行った。	H27.4～
	②子育て中の登録者に対し、子育て支援ネットワークのメールマガジンを配信し、行事予定等の情報提供をした。	H27.4～
	③子育て・家族支援者養成講座（利用者支援コース）を実施し、子育て支援の人材育成を行った。	H27.9～11
(3) 世代間や異年齢同士の子どもの交流機会を豊かにし、子どもの自主性・社会性を育む居場所を充実します。	①各小学校区において、雨天時や長期休暇にも対応する年間を通じた居場所事業「センターキッズ」を開始した。	H27.4～
	②夏休み等に市内の方を講師にした講座を開催した。	H27.4～
	③児童クラブの入会説明会時に、居場所のチラシを配布した。	H28.1～
参画・協働・情報共有の工夫	☆現場に足を運び、家庭的保育でスムーズな給食提供ができるよう、準備した。	
	☆メールマガジンの配信には、幼稚園や保育園などの関係者の協力を得て配信した。	
	☆年度当初に全児童にチラシを配布し、居場所事業とセンターキッズの周知を図った。	

### Ⅲ. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】

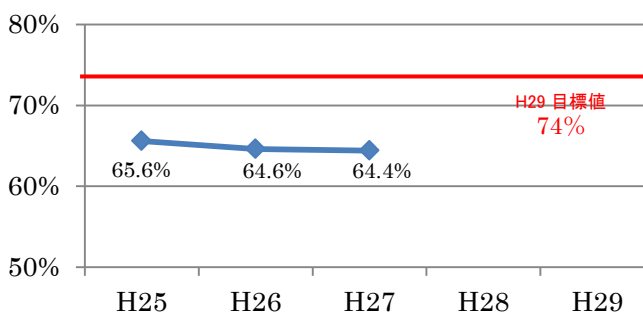
#### 1. 市民意識調査結果

【設問】地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思う

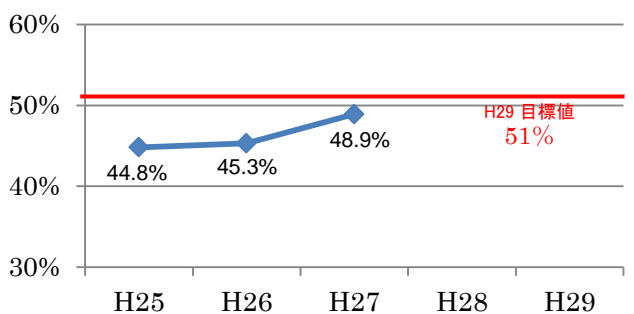


#### 2. 「みんなで目指すまちづくり指標」の状況

1) 子どもを産み、育てやすいと感じている人の割合



2) 子どもとふれあう行事に参加したことがある人の割合



#### 3. 「市民意識調査」「みんなで目指すまちづくり指標」結果に対する分析（要因・課題等）

- 「地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思う」については、前回比 1.2 ポイントの増となっており、引き続き増加傾向にある。
- また、「子どもとふれあう行事に参加したことがある」市民が前回比 3.6 ポイントの増となっており、引き続き増加傾向にある。
- 一方、「子どもを産み、育てやすいまちだと思う」については、全体で 0.2 ポイント減とほぼ横ばいの結果となっている。特に 20 代で 17 ポイント増加しているのに対し、30 代で 9.5 ポイントと大きく減となっており、30 代からは、更なる充実が求められている。
- 自由記述では、特に 30 代の記述が多くみられ、国の子育て支援策の方向性もあり、施設の拡充や保育料の無料化などが求められている。
- さらに、他分野の自由記述においても、施設の老朽化対策、中央公民館の取壊しといった財政運営に対する要望など、幅広く 30 代からの要望が挙げられていることから、行政にサービスの充実を求めている。
- 「地域ぐるみで、子育て・子育てを支えているまちだと思う」について、50 代以上の評価が低いのは、家族や地域から子育て支援を受けた祖父母世代と行政サービスの利用を希望する子育て世代の感覚・意識の違いが感じられる結果であると感じられる。

#### IV. 課題と今後の取組み【ACTION】

課題	課題解決に向けた新たな取組み（案） 見直し・改善（案）	いつまでに
<p><b>（１）待機児童対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• これまでも保育サービスの拡充に努めてきたが、国の施策等の影響もあり、依然、3歳未満児における待機児童対策が必要。</li> <li>• 公立幼稚園の入園率が低下しているため、引き続き、クラス数が減少している。その一方で、保育園での保育ニーズは増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化、高浜幼稚園の認定こども園化により、3歳未満児の受け入れ枠を拡大する。</li> <li>• 高浜幼稚園、高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化の運営法人等を確保できるよう、市場調査を行うとともに、募集要項等を整備する。</li> <li>• 高浜幼稚園の一般預かり保育の拡充及び認定こども園化、高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化により、3歳以上児の保育ニーズに対応していく。</li> <li>• 幼稚園・保育園の入園説明会等で、高浜幼稚園の認定こども園化、高取幼稚園・高取保育園の民営化・認定こども園化についての情報提供を行う。</li> </ul>	<p>H29.3</p> <p>H28.10</p>
<p><b>（２）子育て支援情報等のPR不足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• P T Aや保護者の会など、子どもに関わる組織は、毎年人が入れ替わるため、伝わりにくい。</li> <li>• チラシの配布だけでは、利用につながらないので、周知方法に工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎年度当初に、校長会、園長会などを通じ、職員及びP T Aなどに向けて、周知していただくよう依頼していくとともに、<b>直接PRできる機会を活用する。</b></li> <li>• 利用者等の声を活かし、ポータルサイトの情報更新やメールマガジンの配信等で、<b>行政から発信が必要な情報も提供していく。</b></li> <li>• 子育て・家族支援者の活動の場として、こども育成グループの相談窓口を拡充し、保育に関する施設や事業を円滑に利用できるよう支援する利用者支援事業（特定型）を実施する。</li> </ul>	<p>H28.4</p> <p>H28.4</p>
<p><b>（３）放課後居場所事業の周知不足</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年々利用児童数は、増加傾向にあるが、センターキッズ事業が開催されたことを含め、まだまだ周知不足である。</li> <li>• 児童向けには、学校を通じて、毎日の居場所事業の実施状況をお知らせしているが、保護者向けに実施状況を発信する手段がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 年度当初のチラシ配布や、児童クラブの入会説明会などの機会を活用し、事業のPRを図る。</li> <li>• チラシ配布に加え、小学校の全校集会等で、直接子どもたちに説明する。</li> <li>• 保護者向けに、子育て支援ネットワークのホームページやメルマガで事業の実施状況をお知らせできるよう工夫する。</li> </ul>	<p>H28.6</p> <p>H29.3</p>
<p>参画・協働・ 情報共有の工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>☆幼稚園・保育園の入園説明会等で、民営化・認定こども園化についての情報提供を行う。</li> <li>☆いちごプラザ等の子育て支援施設をはじめ、幼稚園P T A四役会や保育園保護者の会などで、市民の意見を直接お聞きする。</li> <li>☆チラシ等の作成にあたっては、分かりやすい言葉や図を使うなど工夫する。</li> </ul>	

## V. 第6次高浜市総合計画推進会議による点検・確認結果【CHECK】

### II. 目標達成のための主な取組み【DO】に関して

—

### III. 目標の達成状況と結果分析【CHECK】に関して

—

### IV. 課題と今後の取組み【ACTION】に関して

- 事業のPR方法として、チラシの配布だけではなく、例えばPTAの総会などに積極的に向かい、直接説明することも必要ではないか。ありとあらゆるチャンスを使ってほしい。

### その他、目標の達成に向けて

- ここ数年でどのくらい公立幼稚園の入園率が低下し、逆に保育園のニーズが増えているかなど、段階を踏んだ情報発信を行っていく必要がある。早めに具体的な数字を挙げていくことで、市民の認識も深まると思う。
- 市の就園前の子育て支援施策は全国的にも進んでいて手厚いと実感している。その部分をもう少し盛り上げていけると、お母さんたちが子育てのことを顧み、いろんな課題にも柔軟に対応できると思う。
- 親の子ども離れが低年齢化しており、地域ぐるみで働きかけることが大事で、その部分を見てあげられるといいと感じる。